

畑のパズル

グループ別に割り付ける

毎年2月と8月に、春夏野菜、秋冬野菜の作付け計画を考えています。作物には、連作を嫌うものや、畑との相性の良い悪いがあるので、その条件を考えながら、どこに何を植えるのか考えていきます。

作付け場所は、野菜を次の大きな種類に分けて、そのグループごとにどこに植えるのかを決めます。ゴボウ、人参、ネギ、タマネギは作付け面積が広いので、個別に考えていきます。

- ①. 白菜、キャベツ、水菜、大根、蕪、小松菜など (アブラナ科)
- ②. ナス(ナス科)
- ③. キュウリ、冬瓜(ウリ科)
- ④. サトイモ(サトイモ科)
- ⑤. ゴボウ(キク科)
- ⑥. 人参(セリ科)
- ⑦. ネギ(ヒガンバナ科)
- ⑧. タマネギ(ヒガンバナ科)

数年前までは、カボチャ(ウリ科)やジャガイモ(ナス科)、サツマイモ(ヒルガオ科)も植えていましたが、イノシシの食害が多く、収穫期になると毎日のように食害され、収穫量がゼロになるだけでなく、防獣柵の修理に多くの手間がかかるので、今は栽培を中止しています。

2か所以上に分散する

イノシシやシカが畑に侵入してきたとき、病気が発生したとき、害虫が発生したとき、畑には危険が一杯です。農薬を使わないので、病気や害虫の発生は致命傷になることが多いです。そのため、2か所以上の圃場に分散して作付けをします。

畑との相性を考える

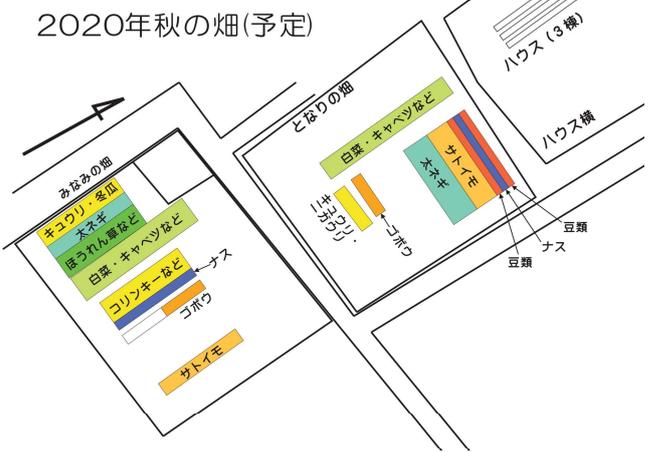
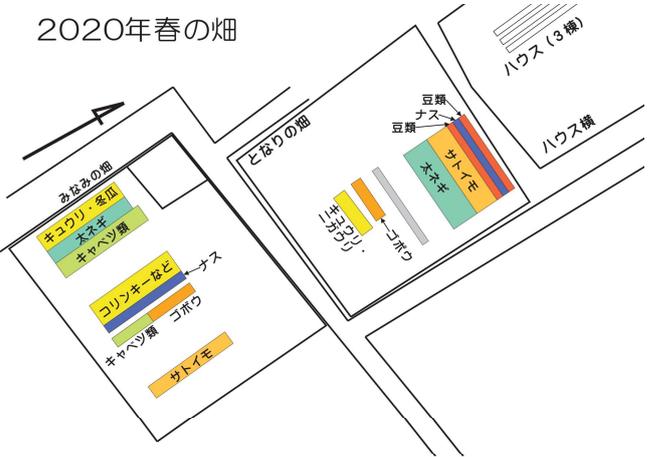
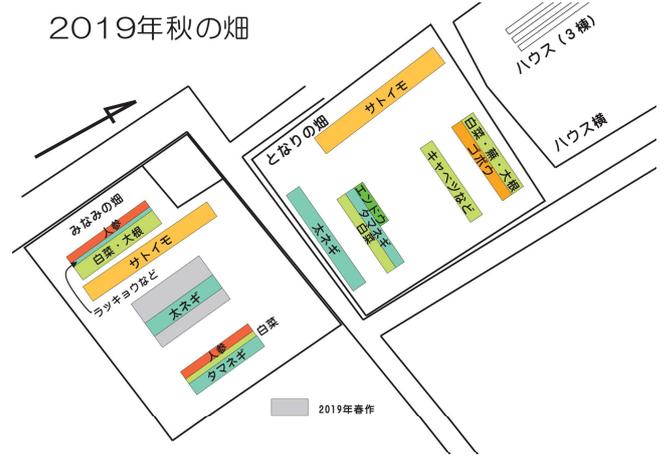
ゴボウは、特に気を付けて栽培の場所を選びます。湿気が多い場所だと、根腐れをおこしやすいですし、場所によっては短根や股根になります。また連作すると表皮が黒くなる根黒斑病が発生しやすくなるので、5年以上間をあけて栽培するようにしています。

面積の多いものから割り付ける

冬瓜やコリンキー・韓国カボチャは、ツルを伸ばすので、ほかの野菜と違い沢山の面積が必要です。そのため、畝の両側に4m以上のスペースをとる必要があります。

連作を避ける

同じ場所に、同じ野菜を何年も続けて栽培すると、病気や生理障害が発生しやすくなったり、その野菜を好む虫が増えて、食害の被害が大きくなったりします。そのため、栽培の間隔が3年以上(ゴボウは5年以上)になるように作付け場所を考えます。



マルチを張る前のみなみの畑、白菜・キャベツ予定地